

会 議 録

《会議名称》 令和元年度 第 1 回岸和田市景観審議会 《開催日時》 令和元年 5 月 29 日(水) 14 : 00～16 : 00 《開催場所》 岸和田市立中央公民館 3 階 講座室 4	承認 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 33%;">会長</td> <td style="width: 33%;">竹田委員</td> <td style="width: 33%;">田中委員</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">6/12</td> <td style="text-align: center;">6/11</td> <td style="text-align: center;">6/10</td> </tr> </table>	会長	竹田委員	田中委員	6/12	6/11	6/10
会長	竹田委員	田中委員					
6/12	6/11	6/10					

《出席者》（景観審議会委員出欠状況）

大野委員	岡田委員	加我委員	片原委員	岸田委員	小池委員	竹田委員	田中委員	中野委員	深田委員	星乃委員	堀田委員	行委員	頼友委員
○	×	○	○	○	○	○	○	○	×	○	×	○	○

（委員 14 名中、11 名出席）

岸和田市) まちづくり推進部長 吉田
 事務局) 都市計画課 山田、渡邊、柿花、有本、滝元
 傍聴者) 2 名

《概 要》

■審議案件

1. ころに残る景観資源発掘プロジェクトについて
2. ころに残る景観資源発掘プロジェクト次回テーマについて
3. 啓発に関する情報発信について

■報告事項

1. 令和元年度年間スケジュールについて

《内 容》

■開会

- ・ 司会進行の紹介。
- ・ 14 名中 11 名の委員出席を確認。
岸和田市景観審議会規則第 6 条第 2 項の規程により審議会の成立を確認。
- ・ 傍聴状況報告。

■挨拶

- ・ 吉田まちづくり推進部長挨拶
- ・ 加我会長挨拶

■会議録確認者の指名

- ・ 会議録確認者として竹田委員と田中委員の 2 名を指名し、承認される。

■議案第 1 号「ころに残る景観資源発掘プロジェクトについて」

ころに残る景観資源発掘プロジェクトについて、事務局より説明。

【質疑の概要】

（会 長） ・ この議案では発掘委員会の委員の選出について、デザイン委員会と本審議会の委員から選出することについて確認を頂くという認識でよろしいか。

（事務局） ・ 委員構成について本審議会とデザイン委員会から 4 名選定することは決定している。
 ・ 今回のまち景観を選考するうえでどのような分野の委員にお願いするかご意見を頂きたい。

（会 長） ・ 具体的にどの分野ということも難しいと思うので、議案第 2 号もご確認いただきながら意見を聞きたいと思う。現時点で第 1 号に関して特に意見なしということよろしいか。

（委 員） ・ （一同）了承。

■議案第2号「こころに残る景観資源発掘プロジェクト次回テーマについて」
こころに残る景観資源発掘プロジェクト次回テーマについて、事務局より説明。

【質疑の概要】

(委員)・3、4ページの考察について、30代以下の年代でグラフを作成した根拠は何か。

(事務局)・応募者やまちかど審査参加者の年齢層が高く、若年層が岸和田らしい景観としてどういったものをイメージしているのか分析するため作成した。若年層のなかでも、これから本市を担っていく子育て世代を特にターゲットとしてイメージしている。
・転出する機会の多い子育て世代に岸和田市への愛着を持っていただきたいと考えている。

(委員)・年齢ではなく居住年数やライフスタイルで分析された方がいい。
・高齢の方も居住年数が短い場合などは印象も変わるのではと思う。

(事務局)・まちかど審査では、居住年数の短い人は写真写りが良いものを選んでいる人が多く、居住年数が長い人は思い出がある場所を選んでいるという印象を持っている。
・アンケートでは居住年数についても回答をもらっているので今後分析したいと考えている。
・今年度実施予定のアンケートについて、ご助言いただいた内容を踏まえて、質問事項を精査したい。

(委員)・今までの指定景観資源は点でとらえた写真が多く、宝探しの要素が強いように感じる。
そこで、次回テーマは「眺望景観」がよいと考える。高い所からだけではなく河川など視点場によって様々な眺望景観があると思う。

(委員)・このプロジェクトは住民が一番大事で、住民がよいと思う場所を発信してもらうことで外国人に来てもらえる。岸和田市が持っている良い資源をどう活用するか、今年度から来年度にかけて考えていただきたい。

(会長)・景観と問いかけても一本の樹木や一つの建築物など、写真作品展のようになってしまう。
このプロジェクトは「樹木景観」ということで樹木とその周りを知っていただくとはじまった。次は建築物でなくてそれが繋がった「みち景観」、その後「水辺景観」「まち景観」ということで眺望景観に近づいていっており、群としてとらえてほしいと思っている。

(事務局)・前回は応募いただいた作品について、群としてとらえたまち景観が比較的少なかった印象となっている。また、応募者から「まち景観」が漠然としてわかりにくかったという意見をいただき、意図があまり伝わっていないのではと感じている。

(委員)・今回候補のひとつとなっている「賑わい景観」で考えられる祭は、「歴史・文化景観」や「季節景観」にも含まれる。今回提示された次回テーマ案の6つから絞ると「賑わい景観」はどうか。

- (事務局) ・6つの中から選ぶわけではなく複合することも考えられるので、どういう組み合わせやどのようなタイトルにするかなどもご意見いただければ今後の展開に活かしたい。
- (委員) ・景観は同じものを見るにも見る方向によって違うと思う。これまでのテーマは樹木、みち、水辺、まちと、人間の活動の方向から見ている景観と、自然の方向から見ている景観が交互に設定されているが、意図的に設定しているのか。
- (事務局) ・意図的ではない。景観重要樹木を指定するにあたり、市内の樹木景観についてお聞きしようと、樹木をテーマに始まった。「樹木景観」をテーマに行った後、景観を群として考えるということで「みち景観」をテーマに設定した。
- ・タイトルのとおり「ここに残る景観資源」のため、募集の際、写真だけでなくエピソードを書いていただいて、人との関わりなどを一部取り込んでおり、景観としての広がりを持たせている。
- (委員) ・市民の視点でとらえたときに、憩いの場や活動の場の景観という視点もあると思う。身近なところから景観という広がりを持った視点でとらえることができると思う。
- (会長) ・どうしても物理的な空間だけを捉えがちだが、活動や行動を中心に捉えるのもひとつかもしれない。
- (副会長) ・景観とはそもそもどういうものなのか、どう見たらいいのか一般の方はわからないと思う。景観に関するセミナーなども行い、その後投票してもらおうとより専門性の高い視点で景観を選んでもらうことができると思う。市民の景観を見る視点の底上げができればいいと思う。
- (会長) ・まちかど審査では、輝く岸和田城や港の夕景など、写真映りがいいところが中心になりがちだが、発掘委員会では、景観資源を捉える際の視覚的広がりや、生業などを加味して、議論しており、そういった違いも面白いと感じる。景観の見方を気づくきっかけになればいいと思う。
- (委員) ・住んでいる場所の近くで、普通に歩いていたらなにも気づかないところにもかかわらず、このような場所が歴史的背景が感じられるとされて、ここに残る景観資源に選定されたら面白い。
- ・アンケートは、図書館や市民センターなどは出入りする人が限定されており、地域によって印象も変わるのでアンケートの結果を全てとするのは良くないと思う。
- (会長) ・アンケートは、結果が数字で出るので、まるでそれが正しいと思われてしまいがちだが、現地で感じられている、数字では表現できないようなことも重要だと思うので意識してもらいたいと考える。
- ・次回テーマについては、ひとまず頂いたご意見を参考にして次回に審議したいと思う。
- (委員) ・(一同) 了承。

■議案第3号「啓発に関する情報発信について」

啓発に関する情報発信について、事務局より説明。

【質疑の概要】

- (委 員) ・啓発事業にいろいろと取り組んでいるが、一番効果があるものに注力してはどうかと思う。現場の様子や手応えなどの印象はどうだったのか。
- (事務局) ・住んでいても岸和田のことを知らない方が非常に多いなか、どのイベントに関しても、本市のことを知ってもらえたという実感がある。
- ・今昔写真展では当時と今の写真を対比して展示し、年配の人には懐かしんでもらえ、若い人には発見していただくことができた。
 - ・意見交換をするイベントでは、景観という言葉の意味がわかって良かったという声を頂いた。地道な活動になるが、一方的に情報を流すのではなく、少しの人数でも場を囲んで理解を深めていくしかないと思っている。
- (委 員) ・今後の課題かもしれないが、何でこのイベントを知ったかというアンケートなどができればと思う。
- (事務局) ・先ほどの若年層への啓発で言えば、市内には4つ高校があり、出前講座ができればいいが、少なくともまちかど審査に協力をお願いしたいと考えている。
- (会 長) ・今昔写真展のパネルやセミナーなど、既存データを活用して時点修正しながら、今後も取り組んでもらいたい。
- (委 員) ・昨年の台風21号により市内のブルーシートが目立つが、それも景観である。また空家や耕作放棄された農地も増えてきている。景観に関する課題を解決する活動も大事だと思う。
- (会 長) ・具体的な解決策として都市計画など他の施策が大事だと思うので、連携をしながら取組を進め、その窓口として、景観をうまく使っていただけるのかなと思う。
- (委 員) ・若い人の意見を取り入れようというのは大事。フェイスブックやインスタグラムなどのSNSを活用し、もっと発信してもらいたい。
- (委 員) ・過去に指定された景観資源はどのように活用しているのか。
- (事務局) ・市のHPやSNSでの掲載や、冊子を配布するなどの活用を行っている。また、株式会社テレビ岸和田の情報雑誌での連載や、岸和田商工会議所の広報誌などに活用いただくなどの事例もあり、広がりを感じている。
- (会 長) ・大阪府内初の景観重要樹木指定などの取り組みにもつながっており、徐々に制度化に取り組まれている。
- ・SNSは市民の方が発信する方が理想的だと思うので、市民がどのようなものを発信して

いるのか研究されたい。

(委員) ・冊子で印がついているところは写真を撮った場所であり、ここに残る景観資源そのものを捉えづらい。群として示すような工夫や、地図上でここに残る景観資源がハイライトできれば、自分が立っている場所と景観との関係性が啓発できるのではないかと思っている。見せ方の工夫の余地があると思う。

(会長) ・手前に景観資源があるときには小さな範囲で済むが、群として伝わりにくい、とのご意見だと思うので参考にされたい。

(委員) ・貝塚市や堺市など、他市との連携はどうなっているのか。

(事務局) ・意見交換などを行っているが、合同でイベントなどは行っていない。本市は景観行政団体のため自主的な景観施策を展開できるが、景観行政団体でない自治体においては、積極的に取り組むことが難しいと考える。ただ大阪府で景観に関する協議会を設置しており、HPを通じた情報発信など広域連携を行っている。

(会長) ・大和川以南で景観審議会を設置しているのは、現在岸和田市と堺市のみとなっており、岸和田市は南大阪を代表する地域だと思う。北大阪では豊中市、箕面市、茨木市、高槻市など積極的に啓発等行っており、景観審議会も設置されている。そういう意味では大和川以南も頑張っていかなければいけないと思う。岸和田市は景観ガイドラインも早くから策定し、環境デザイン委員会での指導助言を行う制度も進めており、景観形成への取り組みとして充実していると思う。厳しいご意見も頂かないと進歩していかないとと思うので、啓発についてご意見頂ければと思う。

(委員) ・(一同) 了承。

■報告案件 1「令和元年度年間スケジュールについて」

令和元年度年間スケジュールについて、事務局より説明。

※ 質疑なし

■その他

(事務局) ・次回の景観審議会については令和元年 10 月頃予定。

以上